

たがさぽからのお知らせ

今年度もリニューアルしました!!

市民活動お役立ち情報

- NEW** 1-② ボランティア受け入れガイド
- 2-② 非営利活動における法人格を知ろう
- 4-② 助成金を活用してみよう

NPOや市民活動について知ったり、活動・運営する上でのお悩みを解決するツールとして活用できる「市民活動お役立ち情報」。カラー版でイラストと図でわかりやすく説明しています。たがさぽで配付しています。

市民活動お役立ち情報 シリーズ一覧

市民活動の基礎から運営まで、役立ち情報が満載! 右記QRから、ネットでの閲覧、ダウンロードが可能です。

シリーズ一覧 最新版



多賀城発で多賀城着。 ヒト・コト・モノを届けます。

「tag(たっぐ)」は多賀城をもっとよいまちにしていきたい、社会や地域のために何か活動したいという方を応援するフリーペーパーです。

ユニバーサルな視点で 避難所を考える



- 1 できますゼッケン**
自分ができることを「見える化」するためのゼッケン。自分ができることで、避難所で役立ちそうなことを真剣に考えました。
- 2 車いすも通れるレイアウト**
車いすの移動ができる通路幅(1.5m)を設定し、実際に車いすに乗って確認しました。通路幅を広く確保することは、車いすユーザーの人以外にとっても過ごしやすいのではないでしょうか。
- 3 点字ブロック**
点字ブロックがない場所にも、臨時で設置できる移動式の点字ブロック。工事現場の近くでも見かけますが、避難所に設置することで視覚に障がいのある人も安心して過ごせます。
- 4 ロービジョン体験**
ロービジョン体験眼鏡で目が不自由な人の見え方を体験。見えない、視野が狭い、ぼやけて見えるといった状態での歩きづらさや文字の読みづらさを知り、工夫できることを考えるきっかけになりました。
- 5 子どもの遊び場**
避難所に子どもが安心して遊べる場所があることで、子どもだけでなく家族など多くの人にいい影響があります。今回はビニール袋を使った寒さや雨風を防ぐポンチョなど、身近な材料で防災に役立つものをつくりました。
- 6 防災バッグ**
運営メンバーのひとりが自身の防災バッグの中身を紹介し、参加者にも防災バッグの中身について考えてもらいました。口腔ケアは感染症対策にもなるので歯ブラシは必須との声がありました。

ユニバーサルとは、多くの人に共通している、一般的、普遍的という意味。このことから、「誰もが」「すべての人が」という意味でも使われています。

まちには子ども、高齢者、障がいのある人、外国人、転勤族など、さまざまな人が暮らしています。避難所も同じです。災害時は誰もが極限状態で、緊急時でもあることから、障がいのある人など少数派の人が避難しにくい状況だったという声がありました。たがさぽでは防災やユニバーサルに関心のあるみなさんと一緒に、誰もが安心して過ごせる避難所をつくるための課題やアイデアを出しあう場を設けてきました。そして2022年11月5日(土)、市の総合防災訓練と同日に実践イベント「ユニバーサルな避難所」を開催。障がいのある人、地域の人、市の職員など多くの方が参加し、体験を通して新たな気づきがあったようです。「日常と災害時はつながっている」—今回の気づきや発見は日常の中でも生かせるものがありました。

ヒント from たがさぽ Press たがさぽのブログから、地域づくりに役立つ記事をご紹介します!

HINT/01 日常を見る視点
【東豊中防災MAPから見てきたこと】
～ヒントやきっかけのタネ～
2021年3月12日(金)掲載

HINT/02 知れば知るほどおもしろい
多賀城みんなの地域学
下馬編
2022年11月14日(月)掲載

HINT/03 多賀城でユニバーサルな
避難所を考えて、実践!
2022年12月11日(日)掲載

たがさぽホームページ 多賀城市市民活動サポートセンター

たがさぽPress 定期的更新中
たがさぽスタッフによるブログ

@tagasapo

You Tube たがさぽチャンネル

tag アンケート 誌面づくりの参考にしたいと思いますので、ぜひご協力をお願いします!

以下のような情報もお待ちしています!

- 自分たちの団体を取材してほしい
- こんな話題を取り上げてほしい
- ユニークな活動や、地域のためにがんばっている団体・人を知っている

What's? tag.
「tag」には、多賀城(tagajo)の頭3文字、みんながタッグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。

たがさぽとは?
たがさぽちゃん
多賀城市市民活動サポートセンター(通称たがさぽ)は、「もっとまちを良くしたい!」「地域にあるいろんな困りごとを解決したい!」という思いをもって、地域でさまざまな活動に取り組む市民のみなさんを応援する「地域づくり」の拠点施設です。

発行:多賀城市市民活動サポートセンター

〒985-0873 宮城県多賀城市中央2丁目25-3
(多賀城市文化センター北隣・上下水道部向かい)
TEL:022-368-7745 / FAX:022-309-3706
発行:2023年2月
編集:NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター





みんなで考える多賀城のこと

自分の暮らすまちのいま・むかしを知る ～地域学で気づく地域の魅力と防災～

まちの記憶の中の出来事や風景は、古くから住む人にとっては思い出ですが、新しく暮らし始める人にとって新鮮に映ります。その土地のストーリーを知り、伝えていくことで、どんな発見があるのか、探っていきたいと思います。

自分の住むまちの歴史を知る 旭ヶ岡町内会

旭ヶ岡町内会ではコロナ禍をきっかけに町内会新聞の発行を始めました。取材を進める中で、92歳のおじいさんが記憶をもとに描いた昔の風景画の存在を知り、そこに描かれていた海軍工廠や米軍宿舎など、現在の東北学院大学工学部周辺地域の歴史を調べました。「旭ヶ岡という地名の由来はなんだろう?」「小さい頃は米軍宿舎に住み、お風呂が2階にあった」など、たくさんの疑問や記憶とともに住居表示としては存在しない旭ヶ岡の姿が見えてきました。



▲2021年5月、地域の方々と旭ヶ岡の歴史をたどるまちあるきを町内会と連携して開催しました。

自分の住むまちの地形を知る

以前、土木系の仕事をしていてIさんは、地形にとっても詳しいです。図書館で調べた昔の地図と今の地図を重ね合わせて比較することで、河川の位置や、かつて田んぼだった場所など、さまざまな変化を知ることができたそうです。「雨が溜まりやすい場所は?」「土砂災害が発生しやすい場所は?」といった災害リスクを考えるきっかけにもなりました。防災の観点でも昔の地形から学べるものがたくさんあります。



▲今と昔の地形が重なるように作成した地図を説明するIさん。この地図はたがさぼで閲覧できます。

自分の住む地域の生活文化を知る 下馬地区

昭和初期の下馬は、商店がたくさんあり、とても賑わっている地区でした。現在は4つの行政区に分かれています。以前はひとつの地区であり今でもつながりが強いそうです。今も残る地区内の酒屋では、かつて冷蔵用の氷が販売されていたことや、一升瓶を持って行って量り売りで醤油を購入していた話。また、現在の下馬公民館の周辺には沼があり、そこで泳いだり、釣りをしたり、冬場には竹で作ったスキーで滑っていたという思い出話が聞かれました。



▲2022年10月、昔の写真や地図を見ながら、下馬地区の懐かしい話を共有する会を開催しました。

自分の住むまちのルーツを知る 笠神地区

笠神地区にある西園寺。笠神という地域はかつて、今の鶴ヶ谷地区周辺にあり、海軍工廠建設のため西園寺とともに現在の場所へ移転してきました。地域一帯は田んぼが多かったことから、中学生くらいまで稲作の手伝いをしていたり、農作業に牛や馬を利用していたという話。また、国道45号線に下りる際は雑木林を越えなければならず通学に苦労したことや、とりもちでスズメを捕まえて遊んでいたなどの話がありました。



▲2022年11月の地域を語る会は、西園寺の花園会館で開催。厳かなながらも温かみのある空間でした。



このように、さまざまな視点からまちを見て、地域のことを知ること、住民同士で対話すること、そこから得た気づきを共有したり発信することが大切です。まちへの愛着が生まれ、次世代が地域に関わるきっかけとなったり、防災意識を高めることにつながっていきます。多賀城は地域ごとにさまざまな顔があります。それらのおもしろさを知ることが、未来の地域づくりの鍵となります。



市民活動 はじまりはじまり

七ヶ浜の記憶を語り継ぐ、聞き書き七ヶ浜

聞いてください、話してください。七ヶ浜のいまむかし。町に暮らし、関わりを持った一人ひとりの思いが冊子「聞き書き七ヶ浜」に詰まっています。

町で出会った人との会話がきっかけで

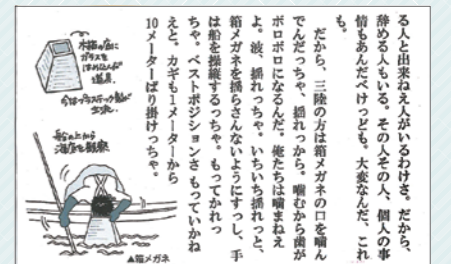
七ヶ浜町にお住まいの阿部美紀さんは、東日本大震災後に災害ボランティアセンターで情報を発信するボランティアをしていました。その活動の中で、被災者がものづくりを通して交流する「きずな工房」(町の社会福祉協議会が運営。現在は閉所)のお手伝いをする事になり、そこで聞いたさまざまな話に興味を持ち、ただ聞いているだけではもったいない、多くの人に知ってもらいたいと思うようになりました。

方言や屋号のことなど地元ならではの話から震災当時の様子まで、内容はさまざま。震災のことを含めて聞いたことを書き残し、将来に伝えたいとの思いから、一冊にまとめようとしたが、あまりにも情報量が多かったため何回かに分けて発行することにしました。2015年9月のVol.1を皮切りに、現在Vol.14まで発行しています。

お話を聞いた方には完成した冊子をお渡しし、「自分の話をこのような形でまとめてもらいありがたい」と感謝の言葉をいただくなど阿部さんの励みになっています。冊子はその後の交流にも一役買っています。



▲「お話を聞くことは好きだから続いています」と話す阿部さん。以前地元学講座で学んだことが冊子作成にも活かされているそうです。



▲文章だけでなくイラストも阿部さん自身によるもので、人柄が伝わってくるような温かいタッチで描かれています。レイアウトは阿部さん自身が、製本はご主人と一緒に自宅で行っており、各号約100部発行しています。

まるで話し手がそこにいるかのように

阿部さんはVol.13(2022年1月発行)で紹介したアワビ漁師のお話が特に印象に残っているそうです。花刈浜には大きなアワビが漁民を助けた言い伝えが残り、海上安全と大漁を祈願する神事が毎年行われています。漁だけではなく海の様子の変化に気を配り、出漁への影響を見通した判断が求められるなど、仕事にも生かせる危機管理につながる話が漁師の言葉のままに書かれていて、読む人の心をつかみます。

Vol.8(2017年12月発行)では復興支援の町民ボランティアの方を紹介しています。作業で使った道具などが整然と置かれている丁寧な仕事ぶりに感動し、写真とともにその様子を伝えています。

その他、震災で被災した方の体験が聞いた言葉そのままに書かれている記事もあり、津波の恐ろしさが読む人に伝わってきます。

これからも地元七ヶ浜のために

最近では地元の食にも興味が出てきたという阿部さん。七ヶ浜の四季の食材と調理方法を地元のみなさんの思い出話とともに紹介した、町作成の冊子「七ヶ浜町風土記」にも関わりました。

さまざまな方から話を聞きあらためて自分の住む七ヶ浜町の良さに気づいたという阿部さん。「岬があり、港があり、山もある。人も気候もあたたかい。私たち地元の住民はもっと自信をもってもいい」と話します。これからも「聞き書き七ヶ浜」を通して町内、町外にもその魅力を伝えていきます。

ここで読めます

- 七ヶ浜町図書センター [閲覧可](#) [貸出可](#)
- 七ヶ浜国際村 [閲覧可](#)
- 宮城県図書館 [閲覧可](#)
- 仙市民図書館 [閲覧可](#) [貸出可](#)
- せんだい3.11メモリアル交流館 [閲覧可](#)
- 多賀城市民活動サポートセンター [閲覧可](#)

聞き書き七ヶ浜

[twitter](#) [ブログ](#)

